



10月第1週頃といえば、コシアカツバメの集団の季節です。私にとって、この10数年来そうなのですが、鳥を見る人の中での認知度は低いようです。そこで、今回はコシアカツバメの集団に注目してみます。テーマはコシアカツバメのねぐらです。

●繁殖を終えたコシアカツバメはどこで寝るの？

7月終わりから8月前半には、各地でツバメの集団ねぐらの観察会が行われます。夕暮れ時に乱舞するツバメの大群は壮観です。その観察会の場でしばしば訊ねられるのは、繁殖を終えたツバメはヨシ原などで集団で寝るとして、コシアカツバメはどこで寝るのか？です。

8月中旬以降になるとツバメの集団ねぐらにショウドウツバメが混じることがありますが、コシアカツバメは混じりません(須川1990)。じゃあコシアカツバメはどこで寝ているのかというと、須川(1990)は「コシアカツバメは、営巣終了後もかなりの期間とっくり型の巣に帰ってきて眠るようです」と推測しています。

1999年10月9日、兵庫県宝塚市での夕暮れ時の巣の観察によると、日没が近づくと、上空を数十羽のコシアカツバメが舞いはじめ、ある時点で1～2羽ずつ高度を下げきて、突然巣に入ってしまったそうです(藤田俊兒氏私信 [obsrg: 1119])。繁殖終えてもコシアカツバメが巣で寝ていることを確認した貴重な観察例です。

●10月になれば思い出す

佐藤(2000)は、1998年10月10日に、奈良県曾爾村の曾爾高原のススキ原にねぐら入りした500～600羽のコシアカツバメを報告しています。ねぐら入りまで確認された例は他にはないのですが、大阪市立自然史博物館には、秋になるとコシアカツバメの大群の情報が寄せられることがあります。2002年10月9日、大阪府池田市伏尾台で約200羽。1997年10月12日や2001年10月3日、奈良県橿原市菖蒲町で約1000～5000羽。いずれも早朝に電線に並んでいたそうです。

この他にも関西でのコシアカツバメ大群の観察例をいくつか聞いていますが、季節は9月末から10月前半に集中します。また、コシアカツバメ大群が観察される場所も、奈良県橿原市と曾爾高原、大阪府池田市の山手、兵庫県宝塚市の山際といった限られた地域ばかりです。

少なくとも一部のコシアカツバメは、大群で渡りをし、それが関西を通過するのは10月初め頃、大阪平野の北縁や、奈



図1：コシアカツバメ。
2010.7 河南町(納家 仁)

良盆地南部を通過するコースがある。と考えると納得できるのですが、残念ながら限られた単発の観察があるだけで、継続的な観察がありません。

●冬のコシアカツバメが寝る場所

コシアカツバメは夏鳥ですが、越冬例もあります。二木・神谷(2001)は、コシアカツバメの越冬例を報告しており、夜はツバメやイワツバメ、ショウドウツバメ、ヒメアマツバメと一緒に河川敷のヨシ原に集団ねぐらを形成していたそうです。ただしコシアカツバメの個体数は5羽以下と少なめです。

●野外で実際に観察してみよう

以上をまとめると、コシアカツバメは繁殖が終わった後も、繁殖地では巣穴で眠る。集団で渡り、中継地では草地で眠る。越冬地ではヨシ原などで眠る。ということでしょうか。しかし、繁殖後のコシアカツバメが巣で寝るといっても、まだまだ観察が充分とは言えません。

また、渡りの際コシアカツバメが必ず大群をつくるのか、その群れがどこで寝るのかも、まだまだ限られた情報しかありません。個人的には、小群で他人の古巣を渡り歩いて寝ながら、渡っていくコシアカツバメがいてもいいんじゃないかと思っています。

とにかく9月終わりから10月前半はツバメ類の大群に要注目です。この時期にツバメの大きな群れはあまりないので、もし大群がいたら、それはたぶんコシアカツバメ。いつ何時頃、どこに何羽くらい集まっていたか、ぜひ記録してください。そしてコシアカツバメの渡りの実態とねぐらを明らかにしましょう！

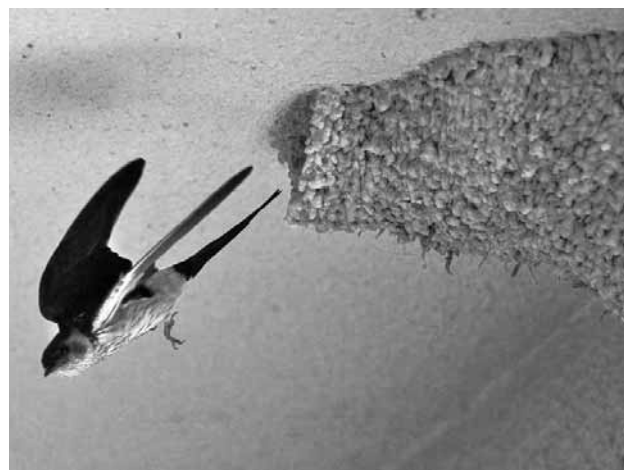


図2：コシアカツバメと巣。2012.7 河内長野市(福田幸充)

●引用文献

佐藤雅史(2000)コシアカツバメの秋期のねぐら. Strix, 18: 141-143.
須川 恒(1990)ツバメの集団時の観察. Nature Study, 36: 89-92.
二木 務・神谷芳郎(2001)静岡県におけるショウドウツバメおよびコシアカツバメの越冬記録. Strix, 19: 201-202.

和田 岳(わだ たけし): 本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。HP「和田の鳥小屋」
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html>